

列-ズ 2, 富山で育つ宿根草 (3) エキナセア・プルプレア

職藝学院 教授 渡邊美保子

エキナセアは、6月下旬ごろから蕾がふくらみ、花が咲くまでゆっくりと色づいてゆくため、8月のお盆のころまで長く楽しめる宿根草です。原産地は北アメリカで、先住民の間では、根っこは何にでも効く薬草として用いられていました。イギリスでは、草丈が高いため宿根草花壇の後方に植える代表で、その後ろに風にそよぐススキなどを組み合わせる自然風な植栽を楽しんでいます。

エキナセアは、花びらのない小花の集団と、これを囲むように付く濃いピンクの細長い花びらからなり、花びらは、咲き始めは上を向いていますが、満開の頃になると垂れ下がり愛嬌のある姿に変わります。咲き進むにつれて、花の中央はハリネズミのように盛り上がり、光りの具合で琥珀色に輝いてなんとも幻想的です。見た目の通り触ってみるとチクチクします。

日当たりが良い所で、深く耕された土なら、少々の乾燥にも耐え丈夫に育ちます。植付け時の元肥以外はあまり肥料を必要としません。また、根っこは太く地中深く張るため、自力で水分を吸い上げます。

苗を植え付けた年は、ようやく1本の花茎が伸びるぐらいのとてもゆっくりした生育で、一冬越しても花茎が数本しか増えません。そのため株の広がりもゆっくりですので、株間は30cmぐらいが適当でしょう。高さは1m以上になりますが、茎が硬く風が吹いても倒れないため、支柱をする手間も省けます。富山の夏花壇におすすめしたい宿根草です。大面積をエキナセアだけで植栽すると見栄えがします。草丈を短くしたい時は、花茎が伸びてきてから、全体の半分ほど切り戻しをします。この場合、開花が2週間ほど遅くなりますが、9月の初めまで花を楽しむことができます。

